

浜岡原子力発電所 2号機を実証プラントとする NuRO パイロットプロジェクトへの参画

2025年10月3日

使用済燃料再処理・廃炉推進機構(以下、NuRO)が本日公表しました([NuROHP](#))とおり、当社は、浜岡原子力発電所2号機(以下、浜岡2号機とし1号機も同様)を実証プラントとする原子炉本体(注1)解体のパイロットプロジェクト(以下、本プロジェクト)に参画することとしましたのでお知らせします。

当社は、浜岡1、2号機の廃止措置計画について、2024年12月に原子力規制委員会より廃止措置第3段階(注2)の認可を受け、2025年3月より浜岡2号機において、国内で初めて商業用原子炉の原子炉領域の解体撤去工事として、原子炉圧力容器上蓋の解体を開始しています。(2025年3月17日お知らせ済)

本プロジェクトは、安全性を最優先とした円滑かつ合理的な原子炉本体の解体工法を構築するため、NuRO、電力10社(注3)、電気事業連合会およびATENA(原子力エネルギー協議会)の協業体制のもと、原子炉本体の解体に係る課題の対応策を協議し、浜岡2号機の解体工事に適用して検証していきます。

当社は、NuROから浜岡2号機を実証プラントとする提案に対し、本プロジェクトの意義を踏まえ、参画することとしました。

本プロジェクトにより、浜岡2号機での検証結果が後続プラントの廃止措置に活用されることで、日本全体の着実かつ効率的な廃止措置の実現が期待されるとともに、当社がNuROと協働して本プロジェクトを牽引し、引き続き、トップランナーとして原子炉本体の解体を進めることで、日本の廃止措置に貢献できるものと考えています。

当社は、浜岡1、2号機の廃止措置について、引き続き安全確保を最優先に、透明性を確保しつつ、着実に進めてまいります。

注1 原子炉本体とは、原子炉圧力容器と炉内構造物です。

注2 廃止措置第3段階では、原子炉領域や原子炉格納容器の解体撤去工事をおこないます。
なお、原子炉領域とは、原子炉圧力容器および炉内構造物、原子炉圧力容器を取り囲む放射線遮へい体を含む領域のことです。

注3 北海道電力、東北電力、東京電力HD、北陸電力、関西電力、中国電力、四国電力、九州電力、日本原子力発電および当社。

以上